トップニュース

ご門主 石川、高岡教区をお見舞い

ご門主は6月27、28日、能登半島地震で被災した石川、高岡両教区の12カ寺（金沢別院を含む）を見舞われた。各寺院で住職などから被災状況や現状についての説明を受けられたご門主は、お見舞いのお言葉を述べられ、集った人すべての元に歩み寄られ、包み込むように手を握り、お言葉をかけていかれた。

ご門主は一人一人の手を取り、言葉をかけていかれた（㊤石川県能登島町・妙万寺、㊦富山県氷見市・常尊寺）

「ご門主のお言葉に勇気いただいた」

27日は石川教区をお見舞いされた。

最初に訪ねられた石川県能登町の松岡寺（波佐谷真充住職）には、鳳珠組内の住職や門信徒など50人が集った。長谷川逑麿組長が組内9カ寺のほとんどが本堂、庫裏などに被害を受けていることなどを説明した後、「宗派関係者やボランティアなど多くの方々のお力添えをいただき、ようやく時計の針が地震発生時刻の午後4時10分から少しは前に進んだように感じています。今日、ご門主にお見舞いをいただき、それぞれがまたがんばろうという気持ちになると思います」と謝辞を述べた。

この後、被災寺院の住職らが被害状況などを説明。同町の浄専寺・若山峰人住職は「ご門徒も大変な被害を受けて不自由な生活を強いられていますが、その中にあっても笑みを絶やさずに声をかけてくださっています。それが私にとっては大きな支えとなっています」と話した。

ご門主は訪ねられた寺院で、被害の状況や現在の様子を聞いていかれた（㊤石川県能登町・法栄寺、㊦同県能登島町・光顕寺）

ご門主は「犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。困難な状況の中ではありますが、先人の方がお伝えくださった南無阿弥陀仏のお念仏とお寺が、皆さまの心の支えとなりますことを願っております」と、お見舞いのお言葉を述べられた。

最後は、門信徒の元に歩み寄り、一人一人の手を取られ、「今日は大変な中をお集まりいただき、ありがとうございました。どうぞお体を大切に」と声を掛けていかれた。松岡寺の門徒総代・土川祐紀雄さん(76)は「やさしいお言葉をかけていただきありがたかった。先人が今日まで護り伝えてきたこのお寺を、みんなでこれからも支えていこうという勇気をいただきました。自宅兼店舗は半壊しましたが、何とか頑張っていります」と語った。

この後、ご門主は、同町・法栄寺（弘崎信正住職）、穴水町の光琳寺（長谷川逑麿住職）、七尾市の安浄寺（龍澤真証住職）、志賀町の西教寺（温井大信住職）を続けて見舞われた。

保育所を開く光琳寺は、境内の園舎が被害を受けて近くの小学校を仮園舎に保育を続けている。本堂にはその園児約30人が駆けつけた。ご門主は園児たちに「1月に大変なことがあって、おうちの方もすごく大変だったと思います。今でも大変なこともあるかもしれませんが、皆さんの顔を見ていますと、すごく元気に、また楽しそうに保育所で過ごされているのかなと思っています。これからも先生のお話を聞きながら、お友達とみんなで楽しく過ごしてください」とやさしく語りかけられた。

最後は、金沢市の能登半島地震支援センター（金沢別院内）を訪ねられ、ボランティア活動の現況などについて説明を受けられた。

翌28日の午前中には、七尾市の光徳寺（富樫敬典住職）と浄尊寺（勝尾考住職）、能登島町の光顕寺（豊原峰学住職）と妙万寺（西島誓雲住職）の4カ寺をお見舞い。光徳寺では、島崎山組の大島尚文組長が組内15カ寺の被害状況を説明したほか、富樫住職が「地面と建物の間に段差ができ、地震の恐ろしさを目の当たりにするような状況ですが、日々少しずつ復興に向けてやっています」と近況を話した。ご門主はお見舞いのお言葉を述べられ、最後は一人一人の手を取りながら、言葉をかけていかれた。

午後からは高岡教区に移動され、富山県氷見市の常尊寺（段證誠也住職）と高岡市の不遠寺（六浦恵秀住職）を訪ねられた。

常尊寺仏教婦人会の浅野美津子さん(77)は「ご門主から温かいお見舞いのお言葉をかけていただき、そして私たち門徒一人一人の元に来て、やさしく手を握ってくださり、とてもありがたかったです。感激で涙ぐんでいる人もいました。このようなご縁をいただき、みんなで『これから力を合わせてお寺を復興していかないといけないね』と話しています」と語っていた。

能登半島地震

被災寺院で僧侶や門信徒一人一人の手を

寺院に集まった門信徒や園児の元に歩み寄り、声をかけていかれたご門主（㊧石川県能登町・松岡寺、㊨同県穴水町・光琳寺）

本願寺新報
hongwanji journal

7月20日（土曜日）

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

茶道 藪内家燕庵
京都市下京区西洞院正面下ル
http://www.yabunouchi-ennan.or.jp

新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

赤光白光

本山を訪れる参拝者から同郷の富山らしき方言が聞こえてくると、「富山からいらしたんですか」と思わず尋ねてしまう。大体が富山か石川の方だ。聞きなじみのある方言は、思いを故郷に誘ってくれ、親やお育ていただいた懐かしいご門徒の顔が思い起こされて、温かいぬくもりに包まれる。

▼昨年9月に石川・金沢城公園で営まれた東西本願寺合同法要で、石川出身の真宗大谷派・木越渉宗務総長が、令和5年奥能登地震（5月5日）の後に珠洲市の門徒宅をお見舞いしたことに触れられた。床柱にヒビが入り家の中は散乱していたが、仏壇だけはきちんと荘厳されていた。すぐに修理してもらったという。「お仏壇が直ったからワシらは大丈夫や。あとは少しずつ片付けていこう」と。仏壇を中心にした生活がそこにあり、北陸人の信仰の力というものをまざまざと見せていただいた、と話された。

▼また「きのどくな」という北陸の方言に触れ、同情の意味にとられそうだが、北陸では「ありがとう」や「気を遣ってもらい申し訳ない」という謙虚な心を込めた感謝の言葉。「私のような者がいただいてもったいないという心。私たちが気付かないところで真宗の学びが言葉になり、伝承されている」と。

▼令和6年能登半島地震から半年。復興の形を模索しながら苦悩するなか、浄土真宗のみ教えに生き、故郷である能登の地を大切に思う人々の姿がある。私の体に染みつき、忘れようにも忘れられない故郷の言葉を大切に、能登に思いを馳せたい。

二〇二四年度 安居講本
『浄土論』講讃　十二講
北塔光昇著　定価6050円(税込)
真宗教義の根幹を為すものが、『浄土論』である。この書では、宗祖親鸞聖人が『論註』を引かれた教行信証「証文類」への引用箇所を中心にして、『浄土論』を解説する。

最新刊
親鸞と現代
武田龍精著　定価3080円(税込)
主に、阿弥陀如来と凡夫存在の入不二的関係論、宗教多元時代における浄土教の脱構築の問題、核兵器の時代における「生老病死」、宗教と現代宇宙論、宗教と科学のあいだに関する課題、仏教思想とホワイトヘッド哲学について考察する。

真宗からの華厳・天台読本一　経典編
北塔光昇著　定価1980円(税込)
一仏乗の基本的な宗旨に華厳宗と天台宗があげられ、これらは真宗僧侶が親鸞聖人の教えを学ぶ基礎学として非常に重要である。この書では華厳・天台の教義を学ぶ前提として、それらの根本経典の内容を真宗との関係をも考えながら概観する。

永田文昌堂　600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入
TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp

基礎から学ぶ浄土真宗シリーズ　完結
阿弥陀仏と浄土
―親鸞が歩んだ道
内藤知康著
人気の授業を書籍化！ 真宗学の第一人者が、浄土真宗の教義を理路整然とわかりやすく語る。浄土真宗を学ぶための決定版。
各一二〇〇円
【基礎から学ぶ浄土真宗1】
【基礎から学ぶ浄土真宗2】
【基礎から学ぶ浄土真宗3】

近刊
念仏往生の教え
―南無阿弥陀仏とは何か
信心と利益
―救いのよろこび

近刊
親鸞教義とその展開　上・下［分売不可］
内藤知康著「教行信証」や、親鸞教義と親鸞以降の教学の問題を究明した論文ほか。聖教を根拠に論理的論考を展開する。真宗を学ぶ上で必読の論集。
九、九〇〇円

日本仏教を変えた　親鸞の独自性
根津　茂著「ただ念仏」の教えがいかに画期的であり、どこまでが法然の思想でどこからが親鸞独自の展開なのか、その真相に迫る！
一、九八〇円

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

探究社　https://www.tankyusha.co.jp

お念仏のこころをはぐくむ
2025年（令和7年）版
ほのぼのカレンダー
A3判・タテ42cm×ヨコ29cm
1部150円
2025年（令和7年）版『ほのぼのカレンダー』が完成しました。例年通り、故東井義雄先生のお言葉を標語とし、毎月の絵はイラストレーターの諏訪間千晃先生、文字は故谷内正遠先生の版画文字となっております。
また、標語の解説書『正直者からは正直者の光が』も1部110円で発売していますので、カレンダーと共にぜひお買い求めください。

よろこび・お盆号も好評発売中です。
1部132円
※100部以上のご購入で割引あり

探究社オリジナル卓上カレンダー
故谷内正遠先生の木版画集『一人じゃないよ』（探究社刊・2750円）から各季節に合った画を選び、卓上カレンダーを制作しました。
リビングや書斎のデスクの上に置いて、上記の『ほのぼのカレンダー』とともに谷内先生の画をぜひお楽しみください。

探究社オリジナル卓上カレンダー
1部900円

〒520-0027　大津市鎌織2丁目9-30-101
TEL 077(599)4201　FAX 077(599)4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年記念出版
『歎異抄文意』
『歎異抄』は妙好人・才市の愛読書だった！
今田法雄著
浅原才市、金子みすゞと『歎異抄』の接点を探り、新たな妙好人の実像を描き出し、『歎異抄』の概要を親鸞の他力思想の視点から明らかにする。
四六判並製　カバー装　280頁
［口絵写真「才市ノート」2点］
定価2,970円(税込)

『内奥への道』
―親鸞聖人の「二河白道」観―
羽田信生著
羽田師の講義は、学問に留まらず「信の一念」からほとばしり出てくる命ある生きた自然の講義である。その熱量を会報「海雲」「はじめに」より、この度加筆されたものです。
四六判並製／約70頁
定価1,100円(税込)

『アメリカで真宗を学ぶ』
―親鸞聖人の「三願転入」とアメリカ人の真宗理解―
羽田信生著
真宗大谷派の「教師養成校」として設置されている「大垣真宗学院」の年に一度の「上山研修」における羽田信生先生御講述の、特別講義の聴記。
四六判並製　カバー約200頁
定価2,420円(税込)

残部僅少
「仏教美術カタログ」進呈中!!

方丈堂出版 https://hojodo.jp/　フリーダイヤル 0120-557-750
京都市伏見区日野不動講町38-25